

学校訪問シリーズ I

臼杵市立東中学校から学ぶ

学校の教育目標「豊かな心を持ち 自らすすんで学ぶ 健康で実践力のある人間の育成」を目指し、AKNS（右写真）を合言葉に、教職員と生徒が一丸となって取り組んでいる東中。今回も、学校評価の4点セットの達成状況から検証し、改善策を絞り込み実践を行っています。



学校経営から学ぶ

協議では、学校運営協議会において、学校経営における前向きな議論が行われ、学校、家庭、地域それぞれの役割分担もできつつあることが話題になりました。

今後は、教育目標、校訓、テーマ、合言葉と、目指す生徒像との関係を整理され、教科横断的な資質・能力をより焦点化することで、家庭、地域との協働がさらに推進されると思います。これからの活動が期待されます。



教材に命を吹き込む
一人の思いを実現させるために、みんなで知恵を出し合う。



観察は全員で
役割を分担して、多方面から観察すると、変化の様子がよくわかる。

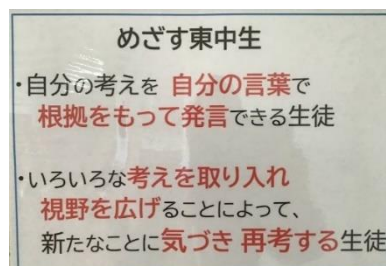
授業から学ぶ

全職員が「めあて」を Can-Do 形式にすることで、生徒達も「課題」や「ふりかえり」が明確になるため、評価もやりやすくなったそうです。

そのため、授業改善がすすみ、今回参観した授業においても、「3人班」による学び合いや、タブレットを思考ツールや意見交流の道具として利用しており、生徒が主体となる実践が行われていました。

また、欠席した生徒には授業のオンライン配信や、登校時の体調管理、生徒会選挙も行うなど、タブレットをツールとして当たり前のように使用していることも素晴らしいです。指導案の「ふりかえり」も生徒の言葉で想定され、1時間の授業のゴール（評価規準）が明確です。

今後は、単元全体でのゴールをイメージした実践が行われることを期待します。



3人寄れば!
それぞれの個性を出すことで、新たな考えやアイデアが浮かんでくる。